



- P1 平成30年の年頭にあたって
- P2 シリーズ もの忘れと認知症のおはなし(第7回)
- P4 インフルエンザの季節がやってきた
- P6 いつまでも楽しく歩く【最終回】
- P7 地域医療連携の充実！
～より迅速に！よりの確な医療の提供を！～
- P8 市民公開講座 / 小児病棟に励ましの“一球”

K a s u g a i M u n i c i p a l H o s p i t a l

平成 30 年の年頭にあたって

皆様、家族の方とすばらしいお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。当院も八田町の旧病院から平成 10 年に新築移転してから 20 年という節目を迎えることになりました。この間、いろいろなことがありましたが、多くの地域住民の方々から信頼され、愛される病院となってきたのではないかと自画自賛しております。

当院は地域の基幹病院として、皆様のもしもの時にいつでも対応できるように職員一丸となって努力してきました。地域で最大数の救急搬送を受け入れていることは、その証ともいえる結果ではないでしょうか。また、最近の 10 年間に病院としての勲章を数々頂戴してきました。災害拠点病院、愛知県がん診療拠点病院、地域医療支援病院、救命救急センターなどの指定を受け、経済産業省から省エネ大賞、全国自治体病院開設者協議会と全国自治体病院協議会から自治体立優良病院表彰などを受賞しました。これらは、地域住民の付託に応えるべく、職員が協力して診療にあたってきたことへの褒章と、私は考えています。

幸いにも病院の経営状況は好転しており、それを機会にさまざまな最先端の医療機器や診療物品を購入してまいりました。放射線治療機器（トモセラピー）、マルチスライス CT などです。また昨年には、電子カルテの更新に伴い実地医家の先生方の診療所との間で当院の電子カルテ情報を共有する試みを始めました。診療を受けられる皆様の大事な個人情報ですので外部に情報が漏れることのないよう万全の対策は取っておりますが、貴重な情報は共有してこそ、かかりつけ医と地域医療支援病院である当院の急性期医療が上手な連携となるのではないかと確信しています。当院からかかりつけ医での通院を勧められたとしても、皆様の診療情報は共有できるわけですから、ご安心いただけるのではないのでしょうか。また、平成 30 年 3 月に MRI を増設します。これは 3.0 テスラの最新機器であり、整形外科領域や神経内科、脳神経外科などの頭頸部領域のきれいな画像が期待されます。経営状況の好転は、新しい医療機器と技術で通院される皆様に還元したいと考えております。

しかしながら、我々も人間です。至らないところも多くあります。皆様には診療を受けるに際し、ご不満やご不安を感じられることも多いと存じます。そのような時こそ、ご意見箱などを通じ、我々職員に皆様のお気持ちを伝えていただけると幸いです。我々と皆様が良い信頼関係を築かなければ良い診療を提供することはできません。お互いが本音で話しあえるような環境づくり、単なる説明書と同意書の往復ではなく、お互いが説明に対し納得し、合意の上で、医療行為を進めることこそが、良い医療の提供と安心につながるのではないかと考えています。

当院職員も努力して皆様の要望に応えていきたいと思っています。当院のこの姿勢に対するご理解とご協力をお願いして、年頭に当たり、院長からのご挨拶とさせていただきます。



院長
渡邊 有三

シリーズ もの忘れと認知症のおはなし (第7回)

神経内科部長 寺尾 心一



あけましておめでとうございます。新しい年を迎え、今年こそボケたとは言われたい・脳を鍛えようと思っている方もみえるかと思います。平成25年10月から始めた「もの忘れ外来」は4年が過ぎ、多くの患者さんやご家族とお話する機会を得ました。受診に至るまでのいろいろなお話を聞かせていただき、スタッフも日々勉強になっています。

昨年3月12日に改正道路交通法が施行されました。認知症の疑いがある75歳以上の運転免許所有者に医師の診断を義務付け、認知症と診断されれば公安委員会の命令で免許の停止・取り消しとするものです。病院への通院や買い物などで車が必要であり、納得できないという意見も多いのが現実です。ご本人の車の運転はやめたくないという思いと、ご家族のやめさせてほしいと思う気持ちのずれがある場合もあります。一方で、現状では認知症という病気ではないが、軽度認知障害（MCI：認知症予備軍）であれば運転に制限はありません。しかし、事故を起こせば、あの時に運転をやめておけばと後悔することにもなりかねません。認知症の人が車の運転をすることでどのような問題が起こるかという説明を、ご本人が納得できることが大切です。

車の運転は体で記憶しているため、軽度の認知症であれば運転はできると思うかもしれません。しかし、小さな事故を起こした場合でも、「覚えていない」「知らない」では周囲に迷惑を掛けることになります。高齢になり運転に不安を感じれば免許証の返納を勧められています。私たち「もの忘れ外来」では、もし病気であれば運転免許証の返納に同意されることを前提で診断書を書くようにしています。

認知症の方に処方している抗認知症薬がありますが、副作用についてはあまり知られていないようですので紹介します。副作用には、食欲不振・悪心嘔吐・下痢、興奮・不穏・易怒性・攻撃性などがあり、逆に認知症の周辺症状（BPSD）を悪化させる可能性もあります。また、眠気があらわれることもあるので、車の運転など危険を伴う機械の操作は十分に注意する必要があります。MCIの段階で進行を遅らせることができればと抗認知症薬を希望される場合がありますが、MCIは病気ではないので薬の保険適応はありません。もし服用すれば認知症の診断で車の運転はダメであると話しています。

運転には自信があるが返納とは？



「もの忘れ外来」では、いつもご本人・ご家族にお話していることがあります。ご本人には、①年をとればもの忘れが増えるのは自然なこと。②脳を鍛えることが大切、頭を使い考える。③生活が便利になるほど脳は退化する。④人とお話しをする、新聞は声を出して読む、歌を歌う、手を使う、字を書く、箸を使う、指先を使う、一行でも毎日日記をつける。⑤適度な運動は大切、たとえ少しでも歩く、ラジオ体操をする。⑥一日一回は外に出る、太陽の光を浴びる、外の景色を見る。⑦昼寝は30分まで、日中は横にならず最低限座っていることが大切です。⑧軽度であっても認知症と言われたら車の運転は止める、それでも運転にこだわれば飲酒運転と同じです。とお話しています。

また、ご家族には①年齢とともに足腰が弱るように脳も衰える、ご本人の記憶力は落ちていることをご家族が十分理解する。②「さっき言ったでしょ」「また忘れたの」「ボケてしまった」は、もう言わない。これは言う側も言われる側もお互いに気まずくなるし、ご本人が一番戸惑っています。③大切なことは紙に大きく書いて目の前に貼っておく、常に確認できる。④耳が遠いことも問題となる、向かい合い、顔を見てゆっくり話す。⑤ご本人のペースに合わせて一緒に外出する機会を持つ、外出の機会や人と接する機会の少ない人は介護申請をしてデイサービスを利用する。⑥火の消し忘れや金銭・服薬管理が問題となる事が多いので注意する必要がある。⑦進みを遅らせる薬は認知症の特効薬ではない、副作用があることも問題。⑧毎日の生活の中でとにかく頭を使うことが効果的です。といったお話しをしています。

もの忘れは、ご本人だけでなく、周りのご家族も一緒に理解し、取り組む必要があります。もの忘れ症状でお困りの場合は、ぜひご家族同伴で「もの忘れ外来」の受診をお勧めします。今年もよろしくお願いいたします。

**お話しすること、
適度の運動は大切！**



過去の内容

- 第1回 「加齢のもの忘れ」と「認知症のもの忘れ」の違い
- 第2回 認知症の原因となる主な病気
- 第3回 アルツハイマー型認知症
- 第4回 毎日の生活の中で、認知症にならないように気を付けること
- 第5回 「もの忘れ外来」の現状
- 第6回 超高齢社会と認知症

*過去に連載した内容をご希望の方は、管理課にてお渡しする事ができますので、お尋ねください。

インフルエンザの季節がやってきた

インフルエンザの予防

感染管理認定看護師 三輪 幸

誰もがかかりたくはないインフルエンザ。どのようなことに気を付けていますか？今回はインフルエンザの予防方法について紹介します。

～インフルエンザの怖いところ～

高齢者や幼児、持病のある人は、肺炎や脳症などを併発して重症化することがあります。

～インフルエンザの予防には～

外出後の手洗いや飛沫感染を防ぐマスクの装着が大切です。

また、かかってしまったら、感染拡大を防ぐため、マスクをするなどの心掛けが大切です。



ポイント紹介

★ワクチン接種

予防接種は、インフルエンザの発症を軽減し、もし発症しても重い症状になるのを防ぐ効果があります。未接種の人は、急いで接種しましょう。ワクチンの効果が持続する期間は、一般的に5か月程度です。

★十分な休養とバランスのとれた食事

インフルエンザは、免疫力が弱っていると、感染しやすくなり感染したときに症状が重くなる可能性があります。普段から、十分な休養とバランスのとれた食事を心がけ、免疫力を高めておきましょう。

★咳エチケット

インフルエンザの主な感染経路は、咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。したがって、飛沫を浴びないようにすればインフルエンザに感染する機会は大きく減少します。人にうつさないためにくしゃみや咳が出ているときは、マスクを装着しましょう。また、マスクを装着することで予防にもなります。マスクは隙間からウイルスが入らないように、鼻と口を確実に覆うように正しく装着しましょう。

★外出後の手洗い

私たちは毎日、様々なものを手で触れます。触れたものから手にウイルスが付着し、体内に侵入する可能性があるため、こまめに正しい手洗いをしましょう。

★人混みや繁華街への外出を控える

流行期の不必要な外出は控えましょう。

マメに予防で、インフルエンザに
「かからない」「うつさない」



インフルエンザの薬

薬剤科 大岩 拓馬

治療薬には、飲み薬や吸入薬、注射薬（点滴）があります。どの薬も決められた期間しっかりと服用することが大事です。途中で服用をやめてしまうと、ウィルスにより抵抗力の弱まった部分に細菌が侵入し、別の病気を発症する恐れもあるため、完治するまでは処方された薬を最後まで服用してください。

また、処方する薬の使い分けは、10歳未満の子どもや高齢者は服用しやすい飲み薬、それ以外の方は吸入薬を使用することが一般的です。なお、病状が重症の方は注射薬（点滴）を使用します。

こんな薬があります

●飲み薬（カプセル・粉薬）

薬品名：タミフルカプセル、タミフルドライシロップ

特徴：1日2回5日間服用します。異常行動の副作用が報告されており、10歳以上の未成年者には原則使用しません。



●吸入薬

薬品名：リレンザ吸入、イナビル吸入

特徴：リレンザは1日2回5日間、イナビルは処方時に1回吸入すれば5日間程度効果が持続します。添加物に乳糖が含まれているため、乳製品のアレルギーがある場合は注意が必要です。



●注射薬

薬品名：ラピアクタ点滴静注液

特徴：内服や吸入ができない場合に使用されます。単回投与で効果が得られます。



インフルエンザの治療中に特に注意する点として、子どもに対する『解熱剤の使用』と『異常行動』がありますので紹介します。

【子どもの解熱剤は注意！】

インフルエンザと診断された場合、子どもに処方される解熱剤の多くは「アセトアミノフェン（カロナール）」です。これはアスピリン、ジクロフェナク、メフェナム酸といった成分の解熱剤をインフルエンザの時に使うと、インフルエンザ脳症やライ症候群を引き起こす可能性があることがわかっているからです。

もし、子どもが発熱して自宅にある市販薬を使用する場合は、成分がアセトアミノフェンであるタイレノールAや小児用バファリン、アセトアミノフェン坐剤を使用するようにしてください。

【タミフル＝異常行動ではない！高熱があれば、誰でも注意！】



平成18年頃、タミフルによる異常行動について多く報道されました。当時、厚生労働省からも緊急の注意喚起が通達されました。しかし、その後の調査でタミフルを使った患者さんと、薬を何も使用していない患者さんを比較したところ異常行動の発現割合は変わらなかったという報告がでており、薬を飲まなくても注意が必要であるという内容に変更した注意喚起を再度通達しました。しかし、それを知らない方も多くいるのではないのでしょうか？高熱が出た場合は「熱せん妄」と呼ばれる症状により記憶がおかしくなったり、異常な行動や発言が現れることもあります。

「タミフルを飲んでいないから安全」というわけでは決してありませんので十分に注意が必要です。

シリーズ 最終回 いつまでも 楽しく歩く

整形外科 医長 村瀬 熱紀



朝の寒さが厳しくなり布団から出られない季節になりました。今回は、膝関節痛の話を紹介します。寒くなると膝関節痛を訴えて来院される変形性膝関節症の方も少なくありません。変形性膝関節症の原因は、膝関節の関節軟骨のすり減りや半月板の変性・断裂に伴う関節内の炎症、変形に伴う機械的ストレスと考えられています。日本には、約1,000万人の患者さんが存在すると推測され、整形外科的疾患における有病率は腰痛に次ぐ第2位と言われています。非常に多くの方が膝関節痛に悩まされておりますが「どうせ加齢が原因だから仕方ないわよ」「知り合いに膝の水は抜くと癖になるって言われたの」「友達にサプリメントを勧められたわ」などといった間違った認識をお持ちの方も多く拝見します。また、初期は痛みがすぐに治まったり、痛みがあっても年のせいだとあきらめたりして病院を訪れる人が少ないのが現状です。しかしながら、その人にあった適切な治療を受けることで、症状が改善したり、進行を遅らせたりすることができます。

痛みが原因で動けなくなることによる体重増加や、痛みに伴う機械的ストレスの増加を引き起こすことによって、月日の経過とともに徐々に悪化することもあります。一度すり減ってしまった関節軟骨は、元の形に修復することは困難です。我々は、可能な限り痛みを取ることで変形性膝関節症の進行の予防ができればと診療を行っています。治療方法は、病状の進行度や痛みの程度によって異なりますが、薬物療法、物理療法、装具療法、運動療法などの保存的治療が基本です。痛みを取ることによって膝の動きを改善させ、さらに膝の機能を高めることによって悪循環から抜け出すこともできます。しかし、保存的治療を行っても痛みが緩和されず、日常生活に支障をきたす場合は、手術治療を選択することがあります。手術は、関節鏡を用いた半月板の治療や骨軟骨の移植、また、膝の変形が進んだ方に対しては、骨切り術や人工膝関節置換術を選択します。

平成29年4月1日号からシリーズで連載してきた“いつまでも楽しく歩く”は今回が最終回となります。これまで紹介してきた、骨粗鬆症、肩・膝の痛みに関してご不明な点や悩みがある方は、一度整形外科を受診されてはいかがでしょうか。そして、皆様がいつまでも楽しく歩けるように願っております。

膝関節疾患の簡単セルフチェック

- ☐ 膝が腫れる（お皿を押すと上下に動く）
- ☐ 歩き始めが痛い
- ☐ 正座が辛くなってきた
- ☐ 朝立ち上がる時に痛い
- ☐ 長い間歩くと膝が痛くなってくる
- ☐ 階段では手すりがないと痛い
- ☐ 床で膝を伸ばしても床との間にスペースがある
- ☐ 両足をそろえて立ったときに膝の間に指が2本以上入る
- ☐ 過去に膝のケガをしたことがある

チェックが多い方は
早めに病院を受診しましょう！！

地域医療連携の充実！ ～より迅速に！よりの確な医療の提供を！～

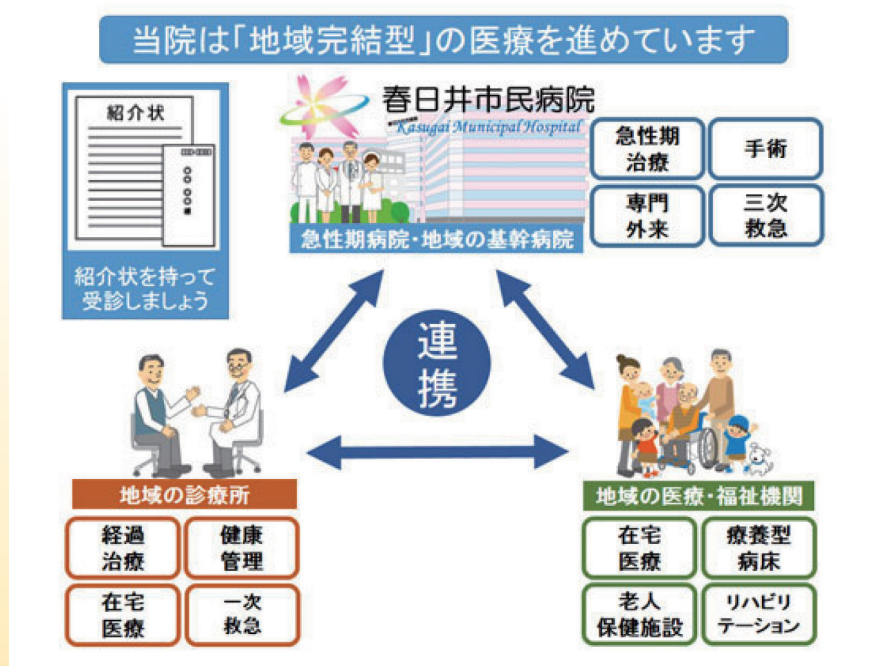
当院は、地域医療支援病院として急性期医療を担い、地域の医療機関と連携し地域完結型医療を実現する役割があります。超高齢社会の中で、急性期を脱した患者さんが、がんや皮膚排泄ケア、嚥下障害、透析などの問題を抱えたまま在宅で療養する問題を、多職種による継続的な在宅医療の提供を行うため、平成28年4月から「春日井さくらネットワーク」を導入し、当院と地域の医療機関や訪問看護ステーションなどと同じ情報を共有することで患者さんに継続した医療を提供してきました。

また、平成29年10月から当院を受診する患者さんの診療情報を閲覧共有することができるシステム「Tri-net かすがい」を導入しました。これによって、当院を受診した患者さんの診療記録や検査画像、検査データ、処方内容などを閲覧することが可能になり、重複した検査や薬剤の処方を行わずに済むことができ、当院と地域の医療機関で継続した医療を提供することができるようになりました。そして、患者さんたちは、当院の診療情報を地域の医療機関の先生方が共有しているため、安心してかかりつけ医を受診することができます。また、当システムは、患者さんがかかりつけ医を受診した際に、当院の外来診療やCTなどの検査の予約を直接取ることができるため、患者さんの都合に合った予約をスムーズに取ることができます。平成29年12月末現在、導入施設は、45施設と少ない状況ですが、今後、当院の医師や事務職員などが積極的に地域の医療機関を訪問し、当システムの利便性を伝えることで導入施設を増やしていきたいと考えています。

両システムとも重要な個人情報である診療情報を扱うため、セキュリティ対策は万全に施していますのでご安心ください。

さらに、当院での治療を終了した患者さんがかかりつけ医にて経過観察を開始する場合や、一定期間ごとに検査機器を用いた精密検査を実施する場合、病状に変化が生じ当院を再び受診する場合など、地域の医療機関と連携し、継続的な病状の管理、把握、治療を行う「地域連携パス」を運用しています。

当院が運用している地域連携パスのうち、がん地域連携パスは県内で最も多い運用数となっています。このがん地域連携パスは、愛知県内のがん診療拠点病院（現在26病院）で手術した患者さんに対し、近くのかかりつけ医と連携を取り合い、治療や経過観察を行っています。このように、患者さんの治療に対する不安の軽減や安心して地域で療養ができるようさまざまな取り組みを行っています。



市 民 公 開 講 座

平成29年12月9日(土)総合保健医療センターにて、「負けるな!あきらめな!アトピー性皮膚炎の皮膚に生まれた人たちへ」をテーマに、第52回市民公開講座を開催しました。皮膚科の古橋医師が、「アトピー性皮膚炎」について病気を受け入れ、どのように付き合っていけば良いかを、遺伝子の違いや薬の使いかた、日常生活で注意すること、最新の治療法について講演し、約150名の方が聴講されました。講演終了後には、医師自身が使用し、お勧めできるスキンケア商品を紹介しました。また、皮膚科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師による相談コーナーも開設し、多くの人でにぎわいました。



次 回 の 市 民 公 開 講 座

と き 平成30年2月10日(土) 正午～午後3時30分

と ころ 東部市民センター

テ ー マ 知っていますか?膵臓がん

講 演 「膵臓を知って、膵臓がんを知ろう」 内視鏡センター部長 高田 博樹
「消化器がんの放射線療法」 放射線治療科医長 小崎 桂

そ の 他 講演前の正午～午後1時30分は、「健康チェック(血糖、血圧、酸素飽和度、骨密度)」「薬剤師によるお薬相談」「医師による医療相談」を実施します。

講演の間に、Satisfy My Soul Gospel Choirによるゴスペル歌唱を実施します。

※事前予約、整理券配布は行いません。お越しいただいた方から順にご案内します。

小児病棟に励ましの“一球”

プロ野球中日ドラゴンズの祖父江大輔投手が平成29年12月21日(木)に当院の小児病棟を慰問し、入院している患者さんや付き添いの家族を励ましました。祖父江投手は順番に病室を訪ね、記念撮影に応じたり、サインボールを手渡したりしました。子どもたちは突然の訪問に驚きながらも、笑顔で喜んでいました。



病院新聞



発行 春日井市民病院 広報委員会

〒486-8510 春日井市鷹来町1丁目1番地1

■電話 0568-57-0057(代表)

■ホームページ <http://www.hospital.kasugai.aichi.jp/>

■Facebook <https://www.facebook.com/hospital.kasugai.aichi.jp>



ホームページ
QRコード